



オーテピア高知図書館
高知県立図書館／高知市民図書館本館
Kochi Prefectural Library and Kochi Municipal Library

目 標 (令和3年度)	実 績 (令和2年3月末現在)	評 価 (令和元年度の実績)
<ul style="list-style-type: none"> ■ オーテピア来館者数 100万人 ■ 年間個人貸出点数 110万点 ■ レファレンス件数 3万件 	<ul style="list-style-type: none"> ■ オーテピア来館者数 1,028,441人 ■ 個人貸出点数 1,064,469点 ■ レファレンス件数 37,914件 	<ul style="list-style-type: none"> ■ オーテピア来館者数 ○ (達成) ■ 個人貸出点数 ○ (ほぼ達成) ■ レファレンス件数 ○ (達成)

これまでの取組状況 (令和元年度実績)

取組の評価・課題等

今後の改善・取組

1 地域を支える情報拠点機能の充実

(1) 資料・情報の提供

- ①資料の収集・提供
- 【R元資料購入費】184,265千円(県102,195千円、市82,070千円)
 - 【R2.3.31時点所蔵資料数】2,624,469点(県981,319点、市(分館分室等含む)1,643,150点)うち、オーテピア1,518,986点(県981,319点、市537,667点)
 - 【電子書籍】利用可能タイトル数:4,980 閲覧回数:3,241 有効登録者数(R2.3.31時点):453人
- ②貸出し・予約・リクエスト
- ・セルフ貸出機等の使用率は約78%と横ばい状態。

(2) 高知県関係資料の収集・保存・提供

- ③デジタル化資料のウェブ・サイトでの公開
- (県)資料の画像データを作成(23点)。また、田岡典夫文庫の目録データ作成(927点)
 - (市)公開中の資料を随時見直し。寺田正写真文庫のデータ登録を行い、5,400点の資料を公開。

(1) 資料・情報の提供

- ①・非売品など書店等で取り扱ってない本も多く、購入に支障がある。
- ・電子図書館のメリット(距離や天候、開館日・開館時間、音声読み上げ機能、文字サイズ拡大機能等)の周知不足。
 - ・電子図書館開始(H29.10)後、最初の有効期限が令和元年9月だったが、登録更新が進んでいない。
- ②利用者の選択肢の一つとして、またマンパワー確保の点からも、セルフ貸出機のさらなる活用PRが必要。

(2) 高知県関係資料の収集・保存・提供

- ③画像の公開により、データの提供依頼が増加。
- (県)目録データの作成が必要な未整理資料が多数ある。

(1) 資料・情報の提供

- ①・利用者のニーズに応えるため、出版社から直接購入するなど、資料の充実に努める。
- ・電子図書館は、広報紙等でさらなる周知を図る。
 - ・利用者の利便性向上のため、メールでの利用者登録申請を開始。(R2.4.28～5月末で404人増)有効登録者数(R2.5.31時点):1,047人
- ②セルフ貸出機のさらなる周知を図る。

(2) 高知県関係資料の収集・保存・提供

- ③・引き続き、貴重資料の保存を図るためにもデジタル化を行う。
- ・公開するコンテンツを充実させるとともに活用をPRし、学問・芸術・産業等の発展に貢献する。

2 暮らしや仕事の中でのさまざまな課題解決への支援

(1) レファレンス・サービス

- ②利用ガイド
- ・館全体では、ブックリスト57種類、パスファインダー7種類公開。
 - ・ウェブ・サイトで公開し、館内やイベント会場で配布。
 - 【レファレンス受付件数】37,914件(うちビジネス支援2,961件、健康安心防災1,974件)
 - ・図書館のレファレンス事例を紹介する記事が新聞に掲載された。
 - 【国立国会図書館レファレンス協同データベース公開件数】0件(※当年度)

(2) 課題解決支援サービス

① ビジネス・農業・産業支援サービス

- ①資料【所蔵冊数(開架)】図書54,962冊、雑誌2,958冊
- ・利用者ニーズへの対応に加え、連携機関のリクエストや推薦依頼があった資料も選書・購入。
 - ・IT系資料を整理してITコーナーに配架。書架担当を置き、定期的なチェックを開始。
- ③連携
- ・館外に向向いのサービスPRや、関係機関がオーテピア諸室を利用する機会に図書館サービスのPRを実施。また、出前図書館を18回実施。

② 健康・安心・防災情報サービス

- ①資料【所蔵冊数(開架)】図書40,279冊、雑誌2,492冊
- ・利用の多い資料は参考図書として複本購入。ニーズの高い看護関係資料を積極的に収集。
- ③他機関と連携したセミナーや相談会等の共催事業の実施
- ・専門機関や行政機関等とイベント、展示、セミナー、相談会等を16回実施。

③ 情報リテラシー向上支援サービス

- ①講座等
- ・毎月開催している館内ツアーに合わせて8月からは「図書館活用ミニ講座」も実施(延べ7回48名)。1月からは、講座内容にデータベースミニ講座(実習)を加えて実施。

④ 行政支援サービス

- ①資料の収集・提供
- ・政策立案等に必要資料や情報の提供。また、データベース操作の説明等を実施。
 - ・行政向けメールマガジンの発行(13回)

(1) レファレンス・サービス

- ②・ブックリストやパスファインダーのテーマを増やすとともに、内容の適宜見直しが必要。
- ・パスファインダーは作成に時間と手間がかかる。
 - ・新聞記事等の効果で、「レファレンス」の認知度が上がり件数が増加。
 - ・増加するレファレンスへの対応(量)や、レファレンスの質の向上のため、検索技術など職員のスキルアップが必要。

(2) 課題解決支援サービス

① ビジネス・農業・産業支援サービス

- ①・ITコーナーを整理し、著名な本を多く配架したことで探しやすくなった。
- ・体制を構築したことにより、書架チェックを効率的・効果的にこなせるようになった。
- ③・出前図書館に対するニーズは前年度より高まっているが、職員の都合がつかず断らざるをえないこともある。
- ・支援、連携による取組を成果に評価していく必要がある。

② 健康・安心・防災情報サービス

- ①新たに多くの雑誌を購入したが、利用者に認識されず、あまり利用されていないものがある。
- ②・参加した事業は概ね好評で、継続して連携を希望する機関も多い。利用者のサービスへの認知度も上がっている。
- ・連携先に図書館と共催することで、より効果的な情報発信・啓発等につながるというメリットが、十分理解されていない。

③ 情報リテラシー向上支援サービス

- ①・図書館活用ミニ講座は、アンケート結果で好評。(参加者の約70%から)3/22「いざというときに備えて知っておきたい相続と遺言の基礎知識」を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館により中止。

④ 行政支援サービス

- ①県労働委員会事務局と連携し、労働相談の解決につながるブックリストを作成・活用。ブックリストを活用した取組などが評価され、同事務局が知事賞を受賞するという成果があった。

(1) レファレンス・サービス

- ②・出前図書館や展示の機会に、ブックリストの作成を継続して行うとともに、問い合わせの多いものから優先して作成する。
- ・司書の専門性の向上を図るため、専門講座など県外研修への派遣や研修内容の館内共有、また館内でのレファレンス研修の開催など、職員全体のスキルアップを図る。

(2) 課題解決支援サービス

① ビジネス・農業・産業支援サービス

- ①・ITコーナー以外でも、資料の入れ替えなどを検討し、充実を図る。
- ・引き続き、関係機関との連携を深め、資料収集を強化していく。
- ③PR効果の高い機会の精査、新規団体を優先する等により連携を広げるとともに、販路拡大等に繋がるようなビジネス支援(取組)を行う。

② 健康・安心・防災情報サービス

- ①ニーズの高い雑誌の購入を継続するとともに、あまり利用のない雑誌を知ってもらうため、展示を行う。
- ②連携機関との役割分担を明確にしたうえで、共催のメリットを共有し、相互に効果的な連携を図る。

③ 情報リテラシー向上支援サービス

- ①中止となった講座は、令和2年度の実施に向けて準備するとともに、県民・市民の図書館活用の促進等に資する講座を引き続き開催する。

④ 行政支援サービス

- ①引き続き、ニーズに合ったブックリストやパスファインダーの作成・公開を進める。

3 利用者に応じた図書館サービスの充実

(1) 児童サービス

- ①資料の収集【所蔵冊数】188,280冊
- ②子どもと本を結びつける行事の実施
【おはなし会(主催)】102回 延べ1,566人 【おはなし会(共催)】19回 延べ842人
- ③保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及
・学生ボランティアの読み聞かせの練習に立ち会い、アドバイスをを行った。
- ④児童書の選定支援
・10月から市町村立図書館(県内3か所)で、購入後1年経過した本の巡回展示を実施。

(2) ティーンズ・サービス

- ①資料【所蔵冊数(開架)】9,790冊
・ティーンズの考えを知るため、来館者中高生にアンケートを実施し、選書の参考とするとともに、興味のあるテーマでの展示やブックリストを作成した。
- ④PR誌の発行等
・『ティーンズ通信』を定期的に発行し、提供している。11月24日にビブリオバトル開催。

(3) 多文化サービス

- ①外国語で書かれた各種資料の収集提供
・日本語学習者向けの資料を収集。電子図書館で外国語の書籍507タイトルを購入。
・ベトナム語資料の書誌データ入力項目を調整・整理。書誌データを作成。
- ②各種催しなどの開催
【HELLO WORLD～外国語のおはなし会～】11回 延べ389人(子ども)
【共催】English Nook～親子でたのしむ英語じかん～】4回 延べ205名<R元新規事業>

(4) 図書館利用に障害のある人へのサービス

- ①資料
・大活字本、LLブックは全点購入。ブックリストを更新し、館内配布及びウェブ・サイトで公開。
- ②各サービス
【宅配貸出サービス】新規申込3名 利用件数53件 利用冊数241冊
【対面音訳サービス】実施回数延べ1,164回(うち登録ボランティア利用延べ1,101回)
- ③ボランティア
・対面音訳ボランティア養成講座及びボランティアスキルアップ研修会を開催。

(1) 児童サービス

- ①計画的に購入できている。
- ②ストーリーテリングがあまりできていない。
- ③読書会や勉強会、連続講座は参加者が固定されていることが課題。
- ④選定支援コーナー及び巡回展示のさらなる利用促進の取組が必要。

(2) ティーンズ・サービス

- ①ティーンズのニーズに合った資料の収集・提供が必要。
- ④ティーンズによるイラスト作品の投稿は増えつつあるが、記事の作成・編集には至っていない。

(3) 多文化サービス

- ①各言語で参考図書が古くなっているものがある。県内在留外国人の母語資料について、十分対応できていない言語がある。
- ②行事を通じて関係団体とも積極的に連携することができ、情報収集するとともに国際交流の機会の提供ができた。

(4) 図書館利用に障害のある人へのサービス

- ①LLブックについては、まだ認知度が低いため、PRを強化することが必要。
- ②宅配貸出サービス、対面音訳サービスともに、認知度が低く、利用に結びつくように広報を工夫する必要がある。
- ③対面音訳に必要なスキルの不足や活動時間の制約のため、活動実績の少ないボランティアがいる。

(1) 市町村立図書館等への支援

- ①・年度の早い段階で担当者顔合わせができたことで、その後の相談につながりやすくなった。
・研修講師となる職員の育成が必要。
- ②・市町村のニーズに応える資料の収集・提供及び物流サービス配送費の継続的な確保が必要。
・遠隔地返却利用者を市町村立図書館の利用につなげることが必要。

(2) 高知市全域サービスの拠点

- ②団体貸出セットについて、セットにより利用状況の偏りがあり、全く利用のないセットについては見直しが必要。
- ③移動図書館車両が老朽化しており、更新が必要。

(3) 県立学校図書館等との連携

- ①・物流サービスによる資料活用を活発にするため、さらなる周知が必要。
・学校図書館の運営やサービスの充実のため、訪問していない学校のニーズを把握するとともに、図書館の活用による授業支援など、教育現場における図書館活用の方法を周知する。

(4) 中心市街地活性化への寄与、周辺施設との連携

- ①・周知の手段を増やしたことで、広く情報を届けることが可能となった。
・第12回のまちゼミ全体の受講者数が、H28(第6回)以降最多となり、オーテピアでのチラシ配布が効果的であったと結果報告会で評価された。
- ②高知県産学官民連携センター、高知県産学官民連携・企業推進課との連携が順調に進んでいる。『土佐経営塾』での図書館活用促進は利用的な事例として評価できる。

(1) 児童サービス

- ①必要に応じて点検や買い替えを行う。
- ②おはなし会の企画の段階でストーリーテリングをスケジュール化する。職員の勉強会を開催する。
- ③図書館見学時のPRのほか、広報媒体の記事を工夫し、新規の参加者を増やす。
- ④選定支援コーナー利用対象者を対象とした講座等の機会を捉えてPRを行う。

(2) ティーンズ・サービス

- ①ティーンズの関心を広げる資料やニーズに合った資料を充実させるとともに、利用につながる取組を行う。
- ④県内の十代の利用者を部員とした「ティーンズ部(仮称)」を令和2年度前半に設立し、部員と協同して読書推進活動を行う。

(3) 多文化サービス

- ①各国語の参考書について買い替え等を順次行い、新鮮な資料の提供に努める。所蔵のない言語は、雑誌や新聞を購入する。
- ②図書館において異文化を知り、国際交流のきっかけとなるよう引き続き行事を開催する。

(4) 図書館利用に障害のある人へのサービス

- ①ブックリストを継続して作成・更新し、イベントで配布するなどして利用を促進する。
- ②イベント等の機会に周知する。対面音訳サービスは、チラシを作成し周知を図る。
- ③対面音訳サービス利用者のニーズを聞き取り、ボランティアの研修に生かす。

4 連携・支援及び図書館の活用

(1) 市町村立図書館等への支援

県立

- ①人的支援【巡回訪問】33市町村延べ94回【依頼訪問】5市町村延べ17回
・新館準備中の図書館への業務支援を集中的に行った。
【ブロック別研修会】4会場67名【どこでも研修】5市町各1回49名
- ②物的支援【購入冊数】7,531冊【物流取扱冊数】121,044冊【協力貸出点数】32,301点

(2) 高知市全域サービスの拠点

市民

- ②学校・学校図書館等との連携
・団体貸出セットの一部の内容更新を行った。
- ③PR
・移動図書館をウェブ・サイトや利用案内で紹介。

(3) 県立学校図書館等との連携

県立

- ①学校図書館の要望に応じた資料のまとめ貸し
【貸出セット貸出実績】26校(私立含む)691冊
・令和2年度から物流サービスの対象を拡大し、高知市内の県立・私立高校も利用可能とする。
・県立学校を訪問したことで、学校図書館に求める役割が学校によって異なることが分かった。

(4) 中心市街地活性化への寄与、周辺施設との連携

- ①中心市街地活性化への寄与
・オーテピア高知図書館Facebookほか多様な手段で日曜日や周辺商店街の情報を発信。
・土曜夜市(7/6)や得する街のゼミナール等の事業へ参加。
- ②周辺施設(教育・産業支援施設)との連携
・高知県産学官民連携センターの『土佐経営塾』等で図書館活用講座を実施。

(1) 市町村立図書館等への支援

- ①・新館整備等で支援を要する市町村の情報を収集し状況を把握するとともに、重点的に必要な支援を行う。
・中堅司書が研修講師を行う機会を増やすとともに、必要な研修を受講しスキルアップを図る。
- ②遠隔地返却利用者に対し、地元図書館でオーテピア高知図書館の資料が借りられることや、地元図書館の利用促進についてPRする。

(2) 高知市全域サービスの拠点

- ②学校現場や学校教育課と意見交換に努める。
- ③令和3年2月の新車両納車に向けて準備を進める。

(3) 県立学校図書館等との連携

- ①・県立校長会や教育センター等を通じ、図書館サービスの周知を行い、連携を図る。
・利用の手引きを作成し、県立学校へ広報する。

(4) 中心市街地活性化への寄与、周辺施設との連携

- ①情報発信を継続する。引き続き、魅力あるイベント企画し参加していくとともに、必要な改善を行う。
- ②支援機関職員へのPRを継続して行い、図書館を紹介していただくよう働きかける。